

平成21年度第1回懇話会での懇話会の今後のあり方についての主な意見

※委員には対応欄削除したもの渡す

済：すでに実施済み ○：見直し案として取り上げる ×：見直し案として取り上げない △要検討

意見	発言者（敬称略）	対応
これまでの提言の実現の程度と実現できていない理由をフォローアップしていく必要がある。 （10年の取組の総括と再評価）	仲尾 水野 成	○
懇話会の委員が先頭に立って、国際理解教育や外国籍市民に対する相談事業の中に入っていくことが必要	仲尾	○
プランは今後10年間の施策のモデルになっているので、プランを1つの叩き台にして、これからの懇話会の討論の方向性やテーマの取り上げ方を決めていく	仲尾	○
中国帰国者、日本国籍を取得した人や国際結婚によって生まれた子どもなど、外国にルーツをもつ人も懇話会の対象としてみていかなければならない	仲尾 にしゃんた 康 呉	○
（外国にルーツをもつ人も施策対象としていることを示すため、）外国籍市民施策懇話会の名称を変える必要がある。※	仲尾、水野 高田、にしゃんた 朴、ハヤサキ 趙、十倉	○
外国にルーツをもつ人も対象とするからには、委員の構成や委員の選出方法を変えることも必要ではないか	仲尾	○
京都市政について審議する京都市会にもっと外国籍市民が抱える問題について注目してもらえるよう、外国籍市民議員懇話会というようなものがないか	仲尾	△
条例に基づく懇話会に格上げできないだろうか	仲尾 ハヤサキ	△
報告書に、外国人に対するインタビューを掲載するなど、外国人の生の声を反映させることがもう少しできたらと思う	劉	○
学校の校長先生など、学校関係の管理職に、懇話会で議論されたことが十分に理解されていないような気がする	裴	○
教育問題を集中的に討議する専門の会議が必要だと思う	金（明）	済？
送られてくるニュースレターがいつも抽象的で、はじめて読む人にはわかりにくいものとなっている	呉	？
市長の諮問機関として意見をあげても施策として反映されないのでは意味がないので、京都市の議決機関に反映されるような懇話会にしていってほしい	呉	△
自分の意思ではなく日本で居住することになった、あるいは日	成	×

本で生まれたオールドカマーと、自由意思で来日したニューカマーは抱える問題も異なるので、分けて考えるべきだ。オールドカマー用とニューカマー用の分科会を2つつくって別々に論議をする必要がある		
オールドカマーとニューカマーの問題は別々に論議するのではなく、その時々テーマを決めてオールドカマーもニューカマーも同じ土俵で話しあう必要がある	康 ハヤサキ 超 セリム	—
懇話会はオールドカマーが今まで培ってきた経験をニューカマーに受け継いでいく場にするべきである（オールドカマーとニューカマーの経験の共有の場にする）	康 ハヤサキ 水野	—
今の懇話会の委員は高学歴の人ばかりなのが気になる。一般のニューカマーにとっては、言葉の壁がとても高い。通訳をつけるなど、日本語の読み書きができない一般のニューカマーが参加できる仕組みが必要である	ハヤサキ	△
会議を国際交流会館で開くのではなく、一度外国籍市民が多く暮らしている東九条で開いてみてはどうか	にしゃんた	○
年4回では政策に反映させるための議論をするのに時間が足りないの、懇話会の回数を増やすべきだ	劉	△
委員でなくなっても、あるいは母国に帰ってからも情報を見られるような懇話会のHPがあればよい	馬	済
懇話会のニュースレターを多言語化し、国際化推進プランも全部は無理だとしても概略だけでも多言語化して発信する必要がある	水野	△

※外国籍市民施策懇話会の新名称についての案

多文化共生懇話会（高田）

外国系市民懇話会（にしゃんた）

多文化共生を名称に含める（朴）

多文化市民懇話会（ハヤサキ）

外国籍という言葉はなくす（趙）

外国籍という言葉はやめて、市民ということを大きく扱う（十倉）